



# 国際数理科学協会会報

No.47/ 2006. 9

編集委員長 藤井正俊

## 目次

*選挙結果	*協賛研究集会
*委員会と委員名および Prize 委員名	*お知らせ
*「国際数理科学協会会報」編集委員	*訃報
*Bylaws2007	*機関会員募集
*年会報告	*会員募集
*研究集会	

## \*選挙結果

2006Bylaws に基づいた、会長、officers、理事の投票結果は次の様になりました。

次期会長(信任 14 票/不信任 0 票/投票総数 14 票)

執行役員(secretaries)(信任 14 票/不信任 0 票/投票総数 14 票)

新理事(信任 14 票/不信任 0 票/投票総数 14 票)

これにより、次期会長、新 officers(secretaries)、新理事ともに信任されました。

以上の結果を踏まえた現在の役員の一覧とその任期を以下に改めて表示します。

- 
1. 会長 井関清志(任期 平成 19 年 12 月 31 日)
  2. 次期会長 長尾壽夫(任期 平成 19 年 12 月 31 日)
  3. 前期会長(欠員)
  4. 出納官(treasurer) 西田俊夫(任期 平成 19 年 12 月 31 日)
  5. 執行役員(secretaries)
    1. 編集担当役員(定員 5 名)
      - (1) (SCMJ)(定員 2 名)  
石原忠重(任期 平成 19 年 12 月 31 日)、  
欠員(1 名)
      - (2) (Notices) (定員 1 名)  
欠員(1 名)
      - (3) (会報)(定員 1 名)  
藤井正俊(任期 平成 21 年 6 月 30 日)
      - (4) (WWW)(定員 1 名)  
毛利進太郎(任期 平成 21 年 6 月 30 日)
    2. 集会担当役員(定員 5 名)
      - (1) (参集型) 稲垣宣生(任期 平成 21 年 6 月 30 日)
      - (2) (IVMS) 八木厚志(任期 平成 19 年 12 月 31 日)
      - (3) (遠隔研究集会)(定員 2 名)  
渚勝 (任期 平成 21 年 6 月 30 日)

栗木進二(任期 平成 21 年 6 月 30 日)

(4) (共同国際研究集会)(定員 1 名)

岳五一(任期 平成 21 年 6 月 30 日)

3. Business Administration(定員 4 名)

(1) (正規会員への PR)(定員 2 名)

寺岡義伸(任期 平成 21 年 6 月 30 日)、

欠員(1 名)

(2) (準会員への PR)(定員 1 名)

SenGupta(任期 平成 21 年 6 月 30 日)

(3) (交換誌委員)(定員 1 名)

堤陽(任期 平成 19 年 12 月 31 日)

4. Prize 担当役員(定員 1 名)

(1)佐藤優子(5 種類の Prize 担当)(任期 平成 21 年 6 月 30 日)

6. 会計及び監査 関係役員会(Board of Trustees)(定員 4 名)

出納官(Treasurer)西田俊夫(任期 平成 19 年 12 月 31 日)

監査官(Auditor) 長田尚(任期 平成 19 年 12 月 31 日)

会計委員(associate treasurers)植松康祐(任期 平成 19 年 12 月 31 日)

前会計委員(immediate past associate treasurer) 欠員

## 理事

上記執行役員(officer)および次の方になりました。

国内理事(定員 8 名)

木下佳樹(任期 平成 21 年 6 月 30 日)、高橋涉 (任期 平成 21 年 6 月 30 日)、

服部泰直(任期 平成 21 年 6 月 30 日)、石井博昭(任期 平成 21 年 6 月 30 日)、

中西シズ(任期 平成 19 年 12 月 31 日)、長田潤一(任期 平成 19 年 12 月 31 日)、

坂口実 (任期 平成 19 年 12 月 31 日)、谷口正信(任期 平成 19 年 12 月 31 日)、

海外理事(定員 10 名)

Alexander V.Arhangerskii(U.S.A)(任期 平成 19 年 12 月 31 日 )

Angelo Favini(Italy)( " )

Vladimir Mazalov(Russia)( " )

Gerhard Preuss (Germany)( " )

Ioan A. Rus(Romania)( " )

Krzysztof Sajowski(Poland) (任期 平成 21 年 6 月 30 日)

欠員(4 名)

\* 「国際数理学協会会報」編集委員

八杉満利子(京産大)、木下佳樹(産総研)、服部泰直(島根大)、山田耕三(静岡大)、

渚勝(千葉大)、井関清志、岳五一(甲南大)、谷口正信(早大)、長尾壽夫、石原忠重、

高橋涉、寺岡義伸、安井義和、中西シズ、藤井正俊(編集委員長)、藤井淳一、

宮本勝浩、西田俊夫

以上、いずれの役員も再任を妨げない。

**\*Bylaws2007**

今回の officers,council の選挙により、お蔭様で役員的大幅な充実と国際化が果たされましたが、海外準会員

(海外機関会員)の P.R.等の為に若干名の officers の更なる増強が欠かせないと判断されます。この定員増には bylaws の改正が必要ですので、Bylaws2007 を次の日程で作成し、それに基づいた officers の選挙を行います。

- (1) Bylaws2007 原案を会報 47 に公示し、10 月 20 日 〆切で可否投票を行う
- (2) officer への推薦受付 〆切、11 月 20 日
- (3) 会報 48 号に増員 officer 候補の公示、投票開始
- (4) 会報 49 号(2007 年 1 月号)に投票結果の表示。

2007 年 2 月 1 日新増員 officer 任期開始(2007 年 2 月 1 日 ~ 2009 年 6 月 30 日)

Bylaws2007(案)は Bylaws2006 における officers(secretaries)の数を下記の様に変更したもので、之について賛否の e-mail を 10 月 20 日 〆切で pgp7j@jams.jp 迄お寄せ下さい。

Bylaws2006

Article -Board of Officers **fifteen** secretaries and a treasurer **twenty nine** secretaries and a treasurer

Article -Council **thirty six** members **fifty** members, **eighteen** officers **thirty two** officers

### \*年会報告

年会は、運営委員長石井博昭先生の世話により平成 18 年 8 月 17 日(木)10 時より大阪大学情報科学研究科で行われ、プログラムは下の通りである。

### 統計的デザイン、組合せ的デザインとその周辺

10:00 ~ 10:25 栗木進二(大阪府大・工)

Square lattice designs in incomplete split-plot designs

10:25 ~ 10:50 栗田正秀(広島大・工)兵頭義史(岡山理大・総合情報)

Balanced Second-order Designs of Resolutions  $R(\{10\} \ S | \ )$  for the  $3^m$  Factorial

11:00 ~ 11:25 藤君鵬(神戸大・総合人間)末次武明(神戸工専)

白倉暉弘(神戸大・発達科学)

検索可能計画と最適性

11:25 ~ 11:50 魚住浩之(大阪府大・工)

Incomplete ranking 問題における BIBD

### 統計的推測と統計的ファイナンス

10:00 ~ 10:40 藤井 孝之(大阪大学)

『変化点パラメータに対する尤度比過程の収束について』

10:40 ~ 11:20 高木 祥司(大阪府立大学)

『漸近 2 次推定理論における普遍的許容性』

11:20 ~ 12:00 熊谷 悦生(大阪大学)

『合計特殊出生率に関するデータ解析』

13:30 ~ 14:10 地道 正行(関西学院大学)

『縮小回帰推定量の実行可能性について』

14:10 ~ 14:50 林 利治(大阪府立大学)

『競合リスクモデルにおける区間推定法について』

15:00 ~ 15:40 稲垣 宣生(大阪大学名誉教授)

## 『統計学の教育研究における課題と展望』

### OR グループ

13:30～14:00 N人売り出しのタイミング・ゲーム

大阪府立大学 大学院理学系研究科 情報数理科学専攻 寺岡義伸

大阪府立大学 大学院理学系研究科 情報数理科学専攻 北條仁志

14:00～14:30 ポアソン需要に対する在庫補充

一定の入荷費用と線形損失費用を持つ場合

大阪府立大学 大学院理学系研究科 情報数理科学専攻 北條仁志

大阪府立大学 大学院理学系研究科 情報数理科学専攻 寺岡義伸

14:40～15:10 数量割引問題に関する最適取引数量と最適割引率:

特別展示商品を対象とした場合

流通科学大学情報学部経済情報学科 川勝英史

15:10～15:40 施設に依存する需要に曖昧性を考慮した競合施設配置問題

神戸学院大学経営学部 大角盛広

神戸学院大学経営学部 塩出省吾

15:50～16:50 A simple two-player two-sided games of deception

大阪大学名誉教授 坂口 実

### \* 国際数理科学協会 研究集会 世話人 高井利憲

第17回 ALGI(代数,論理,幾何と情報科学研究集会)を下記の日程、場所で行います。

2006年10月12日(木)～13日(金) 奈良女子大学理学部会議室

講演募集をしています。ご検討頂ければ幸いです。講演を希望される方は、高井 ([t-takai@aist.go.jp](mailto:t-takai@aist.go.jp)) まで情報をお寄せください。題目、講演者名とe-mail address, 所属, 梗概, 希望時間, 講演に必要な道具などが記されていればありがたい。「講演したいと思っている」程度の不完全情報でも結構です。

この会議ALGI (Algebra, Logic, Geometry and Informatics) は、年一回程度の頻度で開催している研究会です。ALGIの趣旨や過去の集会の情報がホームページ <http://sakura.math.kyushu-u.ac.jp/algi/> にありますので、参考までに御覧ください。

今回の ALGI は、国際数理科学協会の研究部会として、奈良女子大学の鴨先生のお力をおかりして開催するものです。会場へのアクセスについては、

<http://www.nara-wu.ac.jp/access.html>. <http://www.nara-wu.ac.jp/campus.html>.

をご覧ください。理学部管理棟と書かれている建物の1階にあります。近鉄奈良駅からだと、南門から入ってすぐになります。皆様のご参加をお待ちしています。

詳細はwebの [研究集会](#) の [数理科学協会年会](#) の欄を見てください。

### \* 協賛研究集会

(1)「第三回システム検証の科学技術シンポジウム」

日時 平成18年10月30日(月)31日(火)11月1日(水)

場所 千里ライフサイエンスセンタービル(千里中央駅すぐ)

主催 科学技術振興機構、産業技術総合研究所システム検証研究センター

開催趣意書

情報処理システムの動作検証は、システムのディベンダビリティを向上させ、また開発の生産性を上げるための基本技術として、その重要性が広く認識されております。システム検証研究センターは、平成16年2月に第一回、平成17年10月に第二回のシステム検証の科学技術シンポジウムを開催し、システム検証の科学技術に関する活発な研究交流を行いました。予稿集は算譜科学研究速報として発行し、その成果の一部はコンピュータソフトウェア誌特集号に掲載されています。

(<http://unit.aist.go.jp/cvs/symposium/sympo-top.html>)

このたび下記の要領で第三回のシンポジウムを開催することと致しました。

システム検証の二つの代表的なアプローチである数理的技法(formal methods)とテスト技法、数理的技法の対象となる数理的モデルを提供するプログラミング意味論、システム開発への品質保証の導入、検証技術の企業におけるシステム開発への適用事例をはじめとする関係各方面における第一線の研究発表をお寄せいただき、この分野の現状を明らかにできればと存じます。

キーワードディベンダビリティ、機能安全、セキュリティ、生産性、数理的技法(formal methods)、モデル検査、定理証明、プログラミング意味論、書換系、テスト技法、品質保証、ソフトウェア開発方法論、検証手法の導入事例研究

(2)The 7<sup>th</sup> International Conference on Optimization: Techniques and Applications(ICOTA)

記事文案

ICOTA7 (「第7回最適化の手法と応用に関する国際会議」)の開催と論文募集について

国際数理科学協会が協賛(後援)するThe 7<sup>th</sup> International Conference on Optimization: Techniques and Applications(ICOTA7, 日本語名「第7回最適化の手法と応用に関する国際会議」)が、2007年12月12日～15日の4日間、神戸国際会議場(神戸市中央区)にて開催されます。本国際会議は、最適化の手法と応用に関する最新の研究成果を発表するとともに、各々のアイデアを交換することによって研究開発の新しい道を見出し、さらに最適化に関連する現実の諸問題に対して様々な経験を共有するための国際フォーラムを提供することを目的としています。本国際会議では、2007年8月1日〆切で発表論文を募集しております。詳しくは、<http://www.iict.konan-u.ac.jp/ICOTA7/> をご覧ください。国際会議の開催及び論文投稿概要

- 1) 開催行事: The 7<sup>th</sup> International Conference on Optimization: Techniques and Applications (ICOTA7)、日本語名「第7回最適化の手法と応用に関する国際会議」
- 2) 開催日時: 2007年12月12日～15日の4日間
- 3) 開催場所: 神戸国際会議場(神戸市中央区)
- 4) 主催団体名: The Pacific Optimization Research Activity Group(POP)、甲南大学知的情報通信研究所
- 5) 開催目的

ICOTAの目的は、研究者やソフトウェア開発技術者らが最適化の手法と応用に関する最新の研究成果を発表するとともに、各々のアイデアを交換することによって研究開発の新しい道を見出し、さらに最適化に関連する現実の諸問題に対して様々な経験を共有するための国際フォーラムを提供することにある。過去のICOTAにはアジア地区だけでなく世界各国からトップクラスの研究者が多数参加しており、特にアジア太平洋地域の最適化研究の発展に多大な貢献をしてきた。前回オーストラリアで開催されたICOTA6において、次回はこの地域における最適化研究の中心である日本で開催してほしいという強い希望があったことから、ICOTA7の開催地は日本となることが決定した。7回のICOTAの歴史において初めて日本で開催される今回の会議は国際的に大きな注目を集めており、これまで以上の成果が期待できる。

6) 討議題目

プレナリー講演6件を含む、200件以上の講演(口頭発表およびポスター発表)で、3日間にわたって議論を

行う。募集する講演の内容は次のように、最適化に関する広範な分野に関係している。

最適化理論、数値計算アルゴリズム、線形計画、整数計画、非線形計画、動的計画、ネットワーク最適化、最適制御、最適化理論と数値的最適化アルゴリズムを含む応用、アルゴリズムの設計、分析、実装、伝統的な数値計画法だけでなく、組み合わせ・連続変数の最適化におけるメタヒューリスティックス、非線形システム、制御、大規模データベースからのデータマイニング、テキストマイニング、知的情報技術、システム科学、知識工学、情報通信ネットワーク技術、生産工学、エンジニアリング最適化、金融工学、大域的最適化、非平滑解析、最適制御と動的最適化、オペレーションズリサーチ、半無限計画、半正定値計画、多目的最適化(アルゴリズムと応用)、確率システムと最適化

7) 協賛・後援団体名(予定を含む): MEET IN KOBE 21、中内力コンベンション振興財団、電気学会 電子・情報・システム部門、国際数値科学協会、日本建築学会、土木学会、日本機械学会、日本計算工学会、日本航空宇宙学会、計測自動制御学会、システム制御情報学会、日本OR学会、中国OR学会、香港OR学会、オーストラリアOR学会、The American Institute of Mathematical Sciences など(順不同)

8) 論文募集概要: Extended abstract もしくは full paper で投稿、投稿〆切: 2007年8月1日、

採否通知: 2007年9月20日、詳しくは <http://www.iict.konan-u.ac.jp/ICOTA7/> を参照

9) 問合せ先: 〒658-8501 神戸市東灘区岡本 8-9-1、甲南大学 知的情報通信研究所 所長 岳 五一  
電話 078-431-4341 Fax 078-435-2540

e-mail: [ICOTA7@iict.konan-u.ac.jp](mailto:ICOTA7@iict.konan-u.ac.jp)、URL: <http://www.iict.konan-u.ac.jp/ICOTA7/>

#### \*お知らせ

- (1) 会員の属する大学等で、最近数学関係の雑誌は大学の法人化などで経済的に手に入れるのが困難なところもあるのではないのでしょうか。協会は諸外国より、有名な雑誌が送られてきています。もし、先生の教室でこれらの一部の雑誌を安価で手に入れる事が出来るなら、欲しいと言うところが有りましたら、協会に御連絡下さればお話が可能です。相当有名な雑誌も有りますので、メール等を頂けますようお願い致します。
- (2) 大学の教員の採用は、最近では公募が主流となってきているようです。この会報は2ヶ月に一度出ておりますので、会員所属の大学等で公募する際は、協会の方に原稿をメール等でお送り願えたら、一番近い号に載せて、会員の方々にお知らせし協力したいと思います。
- (3) 個人会員、機関会員を募集しています。メリットは、SCMJ を見るばかりでなく、論文掲載の際の page charge が随分と安くなります。一般的に研究費の減少のあり、是非御活用願いたく思います。また、投稿してから掲載まで他の雑誌に比べて時間はあまりかかりません。どうぞ近くの方に、個人会員又は先生所属の大学等又は教室が機関会員になりますようお勧め下さい。
- (4) シンポジウム、研究集会等決まりましたらお知らせ下さい。会報を用いて案内等したいと思います。協会の方にご連絡下さい。
- (5) 外国との遠隔集会開催などについては、阪大中之島センターのTV会議システムが便利です。協会に連絡を頂ければ利用金を負担させて頂けます。従来に比べて使い勝手も良くなり新しいサービスの導入も予定されているようです。( <http://www.onc.osaka-u.ac.jp> をご参照下さい)  
大がかりな遠隔会議システムが必要でないという点で、SOBA を用いた国内での遠隔会議も考えられます。使用説明は会報 No.46 にあります。国内での利用は無料です。遠隔会議、集会のためには、使い慣れておくということも大事です。SOBA の使用実験のアナウンスなども致しますので、お気軽にご参加下さい。
- (6) 会報、Notices が今まで以上に充実します。今年から会報、Notices をともに年6回発行しています。特に Notices では、著名な外国人による種々の数学に関する寄稿が予定されています。御期待下さい。近くの方への会員勧誘にも利用して下さい。

**\*訃報**

小林滋先生(鳴門教育大学)が平成 18 年 4 月 13 日御逝去されました。先生には投稿論文の審査を多く手伝っていただきました。ご冥福をお祈りいたします。

**\*Application for Institutional Member of ISMS**

大学、研究所等が協会から SCMJ 誌の直接購買をする機関会員制度について、2006 年より、各機関会員に所属の研究者 2 名を会費無料で準会員として登録すると、準会員が SCMJ に accept された論文を掲載するときの page charge (別刷代金)は会員と同額とすることにしました。

機関会員が online SCMJ の購買をしない場合は、準会員は SCMJ を閲覧する password は貰えず(著者であれば著者として自分の論文の閲覧はできますが)会員並の閲覧は出来ませんが、page charge(別刷代金)は会員と同額です。

この新しい制度の機関会員の P.R.を、日本国内外(BRICS 諸国など)400 大学に向けて、2006 年 1 月から始めています。同時に今迄の SCMJ 投稿者で会員でない方、また、個人会員および(機関会員の)準会員加入の P.R.も始めています。

両者の P.R.について会員の御支援(P.R 先大学の教員の方の名前ご連絡頂く)を御願います次第です。

なお大学系の機関会員入会の Form は次のものです。

<b>Subscription of SCMJ</b> Check one of the two.	Print (US\$300)	Print + Online (US\$420)
<b>University (Institution)</b>		
<b>Department</b>		
<b>Postal Address</b> where SCMJ should be sent.		
<b>E-mail address</b>		
<b>Person in charge</b>	Name: Signature:	
<b>Payment</b> Check one of the two.	Bank transfer	Credit Card (Visa, Master)
<b>Name of Associate Members</b>	1.	
	2.	

## ISMS (JAMS の継続) 会員募集

ISMS の出版物：ISMS は、創刊より約 60 年、国際的に高い評価を得ている *Mathematica Japonica* (M.J.) と、その姉妹誌で電子 Journal と Paper 誌とを持つ、*Scientiae Mathematicae* (SCM) とを発行してきました。両誌は合併して、“21 世紀 MJ/SCM New Series, *Scientiae Mathematicae Japonicae* (SCMJ)”として、電子版は 2000 年 9 月より発行してきました。印刷版は、1978 年 1 月より、年間 6 冊、700~1200 頁を出版しています。全体として 230 巻を超える、日本で最大量を誇る数理学の雑誌です。その特長は、下の 1)~7) です。

- 1) Editorial Board には、国内だけでなく、海外 15 カ国の著名な研究者 40 名が参加している。
- 2) 世界の research group に論文が紹介され、積極的な交流が推進されている。
- 3) Editor を窓口として直接論文を投稿できて、迅速な referee 及び出版が得られる。
- 4) 有名な数理科学者の original paper や、研究に役立つ survey が、毎号載せられている。
- 5) SCMJ は、世界の有名数理科学者による、極めて興味ある expository paper を、毎号 International Plaza 欄に掲載している。世界各国の図書館へ、広く配布されている。
- 6) 投稿論文は、accept 後 (又は組版後) 待ち時間 0 で発行されます。
- 7) *Mathematical Review*, *Zentralblatt* に from cover to cover で review されている。

ISMS の研究会：(1)研究仲間がゆっくり時間をかけて発表、討論をする、特色ある参集型研究会が毎年行われ、非会員も含む多数の参加者の、活発な研究交流の場となっている。(2)ISMS には内外の著名な研究者が多数入っておられる。近いうちに内外を結ぶ高い level の研究会が online で行われる事を期待している。(本誌 45 号 3p 及び Notices March 2006 9p を御参照下さい)

ISMS の学術賞：会員の優れた論文を広く世界に紹介し、更なる研究を奨励するために、ISMS 賞および JAMS 賞を設ける。(詳しくは本誌 45 号 2p 会則 13 条を御参照下さい)

< ISMS の会員の特典 > 1 . SCMJ 電子版の購読 (print out も含む) 無料。2 . SCMJ print 版の少額での購読 (下表 1)。

3 . Page charge の discount (下表 2)。

< 機関購読会員の特典 > 1 . 機関内の 2 名の方を準会員として会費無料で登録することが出来る。2 . 準会員は会員と同じ page charge の discount を受けることが出来る。

表 1. [雑誌購読費]

	正会員 (1 年)	正会員 (3 年)	機関購読会員	定価
Print	¥ 6,000 US\$ 60, €48	¥ 5,500* US\$ 55, €44	¥ 33,000 US\$ 300, €240	¥ 45,000 US\$ 400, €320
Online	Free	Free		
On-line+print	¥ 6,000 US\$ 60, €48	¥ 5,500 US\$ 55, €44	¥ 45,000 US\$ 420, €336	¥ 57,000 US\$ 520, €416

\*3 年会員のみ、雑誌購読費 3 年前分払いの場合は ¥15,000 になります。

著者の方には、SCMJ を 1 冊送料込みで 1,200 円または US \$ 12 で購入できます。

表 2. [ページチャージ]

	Member/Associate Member	Non Member
Paper : P	¥3,850 (US\$ 35, €28)	¥ 4,450 (US\$ 43, €35)
Tex : T	¥ 2,200 (US\$ 18, €14)	¥ 2,800 (US\$ 26, €21)
Js : Js	¥ 1,100 (US\$ 8, €7)	¥ 1,700 (US\$ 16, €13)

表 3. [今年の会費]

Categories	国内会員	海外会員	途上国会員
単年度 A 会員	¥7,000	US\$ 50, €40	US\$ 30, €24
3 年 A 会員	¥18,000	US\$ 120, €96	US\$ 70, €56
単年度 S 会員	¥3,500	US\$ 30, €24	US\$ 20, €16
3 年 S 会員	¥9,000	US\$ 70, €56	US\$ 50, €40
生涯会員**	¥70,000	US\$ 600, €480	US\$ 500, €400

\*\*過去 10 年以上、正会員であった方に限る

但し、A 会員は正会員を指し、S 会員は、学生会員と高齢会員(70 歳以上)を指します。

国際数理学協会

**International Society for Mathematical Sciences**

〒590-0075 堺市堺区南花田口町 2-1-18 新堺東ビル内

Tel: (072)222-1850 / Fax: (072)222-7987

URL: <http://www.jams.or.jp>